

総合資源エネルギー調査会省エネルギー基準部会  
照明器具等判断基準小委員会の開催について

## 1. 趣旨及び審議事項

エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）に「トップランナー方式」が導入されてから7年が経過し、蛍光灯のみを主光源とする照明器具（以下「蛍光灯器具」という。）が2005年度に目標年度を迎えた。

これを受け、省エネ法第25条第5項の規定に基づき、これらの機器の製造事業者及び輸入事業者に対しエネルギー消費効率等の報告を求めるとともに、その報告内容について精査し、達成状況等についての評価を行ったところである。

これらの状況を踏まえ、新たな目標基準値等の策定について検討を行うべく、「照明器具等判断基準小委員会」を開催し、2007年度のなるべく早い時期の最終取りまとめを目指すこととしたい。

なお、「総合資源エネルギー調査会省エネルギー基準部会」（平成19年3月）においても、白熱灯などの蛍光灯以外を含めた照明器具について、新たな目標基準値等の策定に向けた検討を行うべきであると提案されているところである。

（参考）総合資源エネルギー調査会 省エネルギー基準部会 判断基準の策定・見直しについての今後の予定抜粋（平成19年3月）

### 2. 判断基準小委員会の当面の予定

#### （1）照明器具判断基準小委員会

2005年度に目標年度を迎え、当初の見込みを上回る35.7%の効率改善が図られたことから、新たなトップランナー基準の策定に向け検討することとする。

なお、委員会の名称を照明器具等判断基準小委員会として、白熱灯など蛍光灯以外も含めて検討する。

## 2. 委員構成

照明器具等判断基準小委員会の委員構成については、学識経験者、産業界、消費者団体等により構成する。なお、小委員長及び小委員会に属すべき委員は、部会長が指名する。

### 3．本小委員会の当面のスケジュールについて

- 6月 第1回を開催（達成状況、現状、対象範囲について）
- 7月 第2回を開催（測定方法について）
- 9月 第3回を開催（目標基準値、区分、目標年度について）
- 11月 第4回を開催（中間取りまとめについて）
- 2007年11月 パブリックコメントの募集
- 12月 基準部会を開催（最終取りまとめについて）